

港湾振興便り



2025. 8

第219号

:

目 次

*:**

1 ポートエッセイ — おもてなしとAI —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

2 トピック

- 新造客船「飛鳥Ⅲ」が初航海クルーズで函館港と小樽港に寄港しました！

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

- 「最上川200キロを歩く 小学生探検リレー」で酒田市立黒森小学校の皆さんが酒田港を見学しました！

(東北地方整備局 酒田港湾事務所)

- 「海洋都市横浜うみ博2025」に参加

(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

- 村上・岩船地域「命のみなとネットワーク」の取り組み ～岩船港防災訓練～

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

- 港フェスタ金沢2025が開催されました！

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

- 小学生を対象に「松山みなと見学会」を実施しました！

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

3 お知らせ

◇イベント名:オアシス2025夏 美食と芸能の祭典 あいぽーとビアフェスタ

:

1 ポートエッセイ — おもてなしとAI —

～ 日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 中原 八一 ～

:

残暑お見舞い申し上げます。

梅雨らしさがあまり感じられず夏真っ盛りを迎えた日本列島。連日の猛暑でお疲れのことと思うが、その疲れた体を、のんびりと温泉に浸って癒すのも悪くない。

日本は世界有数の温泉大国であり、日本人は古くから温泉を愛し、楽しんできた。加えて、温泉街の景観やその土地の食材を味わうという醍醐味もある。近年温泉地を訪れる外国人観光客も多く、温泉文化の無形文化遺産登録を目指す動きもあり注目される。

「新潟の奥座敷」とも称される西蒲区の岩室温泉が、全国の魅力ある温泉地を選ぶ「温泉総選挙」で、「おもてなし部門」の第1位を獲得している。観光客の方々を温かくお迎えするおもてなしの心が全国の方から高い評価を受けたことは喜ばしい。

「おもてなし」は、ただのサービスではない。相手に敬意を払い、見返りを求めず、相手に満足してもらうために、相手の気持ちを察して心を込めて行動することであり、日本では昔からこのような気持ちを大切にしてきた。

デジタル時代の今日、どんなにデジタル化が進んでも、「おもてなし」は、人の心から心へと伝わるものであり、機械には到底真似できないと考えられてきた。しかし、無人案内ロボットや多言語AIなど、心のこもった配慮を「技術」が補完し、接客業や観光業などでも、AIが「おもてなし」に関わる場面が増えている。AIはWeb上や店舗での手続き・接客・問い合わせを対応することで人の負担を減らし、より効率的なサービスを可能にする。

とはいえ、笑顔や気づかい、ちょっとした声かけなど、人にしかできないこともある。真の「おもてなし」に欠かせないのは、単なる効率や正確さではなく、「人間味」ではないか。相手の気持ちに寄り添い、時には想定外の反応や、ささやかな共感のひと言で心を動かす。その微妙なニュアンスこそが、人の温かさの証だ。AIはまだそこまで完全ではない。技術が進化しても、最後に人の心を動かすのは、ほんの少しの「思いやり」である。その小さな「人間味」をAIは宿すことができるのだろうか。

:

2 トピック

*:

●新造客船「飛鳥Ⅲ」が初航海クルーズで函館港と小樽港に寄港しました！

(北海道開発局 港湾空港部 港湾計画課)

郵船クルーズにとって34年ぶりとなる新造客船「飛鳥Ⅲ」(52,265 トン)が初航海のクルーズで函館港と小樽港へ初寄港しました。

母港の横浜港を7月20日に出発し、22日に函館港、23-24日に小樽港へ寄港した後、26日に横浜港へ戻る7日間の行程で、乗客510人が乗船していました。

記念すべき初航海の最初の寄港地として函館港が選ばれたのは、初代飛鳥が初寄港した 1992 年から数え、函館がこれまで最も寄港回数の多い都市だったことが理由で、今回が通算115回目の寄港となりました。

函館港と小樽港では、初寄港を祝う歓迎セレモニーが実施され、地元高校生による楽器演奏や、船長らとの記念品交換などが行われました。

また、小樽港では港で1泊する飛鳥Ⅲに合わせて、小樽観光協会が飲食店など夜間観光の取り込みを狙い、臨時の観光案内所がクルーズターミナル内に設置されました。

今後、道内では釧路港や室蘭港、網走港にも飛鳥Ⅲが寄港する予定です。



函館港入港



小樽港係留

●「最上川200キロを歩く 小学生探検リレー」で酒田市立黒森小学校の皆さんが酒田港を見学しました！

(東北地方整備局 酒田港湾事務所)

7月19日(土)、山形新聞・山形放送主催の「最上川200キロを歩く小学生探検リレー」が開催されました。このイベントは、5月10日(土)から全11週にわたり最上川流域を歩きながら、ふるさとの歴史や、文化、治水の大切さなどを学ぶことを目的としています。最終週は酒田市立黒森小学校の5年生と6年生の皆さん10名が、庄内町の庄内橋から酒田市の最上川河口までを担当し、河口に位置する酒田港の見学を行いました。

酒田港の見学では、港湾業務艇「みずほ」に乗船して、船上から酒田港に入港している船舶や港の施設を見学しながら、酒田港について学んでいただきました。当日酒田北港には、海上自衛隊の護衛艦「はぐろ」が停泊しており、間近でその雄姿を見た皆さんは、手を振ったり、敬礼したりと大興奮の様子でした。



港湾業務艇「みずほ」の船内での様子



護衛艦「はぐろ」に手を振るこどもたち

●「海洋都市横浜うみ博2025」に参加

(関東地方整備局 港湾空港部 海洋環境・技術課)

7月12日(土)13日(日)、海洋都市横浜うみ協議会主催の「海洋都市横浜うみ博2025」が開催されました。海洋環境・技術課では、メイン会場である横浜港大さん橋国際旅客船ターミナルの大さん橋ホールにてブース出展、及び周辺会場となる大さん橋ふ頭ビル前棧橋にて東京湾口航路事務所の清掃兼油回収船「べいくりん」船内見学会(12日(土)のみ)を行い海洋環境整備事業についてなどのPRを実施しました。

「うみ博」は、展示ブースや、船の展示・見学、ステージプログラム、ワークショップなどにより、子供達に多様な海の魅力を体験する機会を提供するもので、今年は2日間の来場者数が約23,500人とうみ博史上最多を記録し、大きな賑わいをみせておりました。

メイン会場の当局ブースでは、先代「べいくりん」の模型がお子さん達の興味を大きく惹いておりました。また、夏休みの宿題の材料にと当局の環境への取り組みを紹介したパネルの写真を撮影する姿もみられました。

周辺会場では、「べいくりん」を大さん橋ふ頭ビル前棧橋に係留し、本局各課及び事務所の職員とともに船内(ブリッジ、ごみ回収装置、油回収装置)の見学会を実施し、約470名もの方に見学頂きました。

2日間を通じ、東京湾での「べいくりん」の活動や海洋環境整備事業についての理解を深めて頂きました。



「べいくりん」見学会の風景



当局ブースの風景

●村上・岩船地域「命のみなとネットワーク」の取り組み ～岩船港防災訓練～

(北陸地方整備局 新潟港湾・空港整備事務所)

新潟県村上市・岩船港において、6月25日(水)、村上・岩船地域「命のみなとネットワーク」推進協議会(会長:高橋邦芳村上市長)は、緊急支援物資輸送訓練等を村上市、粟島浦村、新潟県等の関係者約90名の参加により実施しました。

訓練は、粟島浦村付近を震源とする地震発生を想定し、発災直後からの情報伝達訓練、大型浚渫兼油回収船「白山」による岩船港への物資輸送訓練、さらに能登半島地震の教訓から孤立集落対策として、小型船舶等による粟島漁港へ物資を運ぶ海上輸送訓練も行いました。

訓練後、高橋協議会会長から「訓練を確実に重ねることによって、災害対応能力は向上するので、これからも努めてまいりたい。」と災害対応能力の向上に向けた抱負を述べられました。また、危機管理教育&演習センターの細坪理事長から「本訓練は官民の連携、物資輸送訓練など充実した内容であり、全国に広めるべきである。一方、実際は円滑に進まない場合もあり、その対応を課題として取り組んでいただきたい。」と講評をいただきました。



緊急支援物資輸送実動訓練の様子



学生との連携による物資輸送訓練
(新潟リハビリテーション大学)



小型船舶への物資積替え状況
(孤立集落対策:岩船港)

●港フェスタ金沢2025が開催されました！

(北陸地方整備局 金沢港湾・空港整備事務所)

令和7年7月19日(土)金沢港無量寺ふ頭の金沢港クルーズターミナルを中心としたエリアで、「港フェスタ金沢2025」が開催されました。

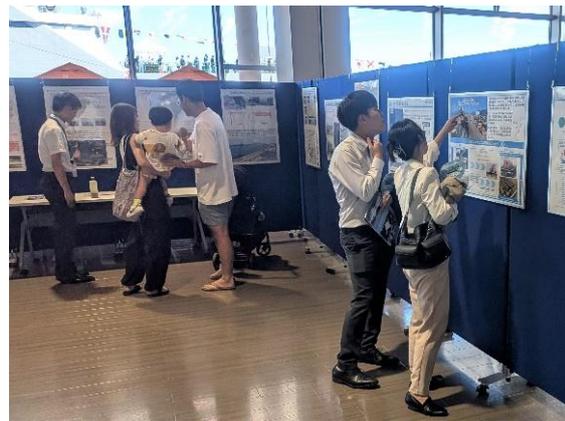
海上安全祈願祭を皮切りに、海上保安庁巡視船「のと」、海上自衛隊護衛艦「みくま」の一般公開や金沢港周辺見学ツアーのほか地元の方々によるステージイベント等が行われました。

当事務所は、港湾業務艇「わかなⅡ」による港内見学を行い、募集人数を超える多数の応募の中から抽選で41名に乗船していただきました。護衛艦などの船舶やガントリークレーン、復旧工事の様子など普段見ることのできない景色を船上から眺めてもらいました。

また、メイン会場の金沢港クルーズターミナル内に設けられた展示・体験コーナーの当事務所ブースには、約400名の方が足を運ばれ、港湾に関するパネル展示やVRを用いた港湾施設の見学疑似体験、3D プリンターで作成した模型を見て楽しんでいただきました。



ガントリークレーンを見る参加者



パネル展示の様子



VR 体験の様子

●小学生を対象に「松山みなと見学会」を実施しました！

(四国地方整備局 松山港湾・空港整備事務所)

令和7年7月25日、松山港湾・空港整備事務所にて、愛媛県内の小学生を対象に「松山みなと見学会」を実施しました！当日は松山市内外から小学生約20名が参加。港湾業務艇「くるしま」へ乗船し、海上から松山港コンテナターミナルと松山空港を見学しました。

松山空港付近では、飛行機の離発着を間近で見ることができ、参加した小学生は大歓喜。保護者の方からも歓声が上がりました。現在夏休み中の小学生たち。夏休みの宿題「自由研究」に使ってもらえることを期待しています！



松山港コンテナターミナルを見学



港湾業務艇「くるしま」へ乗船！



飛行機の離発着を目撃！



「港の役割」についてお勉強

